

...I call this e-mail etiquette,

以上が、私が E メールエチケットと呼ぶものです。

e-mail etiquette E メールエチケット

慣用表現

ビジネスとして適切で、効果的な E メールの書き方については、アメリカの職場でもいろいろな議論があります。ネット上のチャットなどでのエチケットも含めて、ネットを使ったコミュニケーション全体のエチケットを netiquette と呼ぶこともあります。

and I believe that if Americans would send e-mails in this manner and be considerate of the person who is receiving that e-mail, then the response rate would be faster and the communication would be clearer.

で、私としては、もしもアメリカ人がこのようなやり方で E メールを送り、その E メールを受け取ることになる人に対して配慮を示すなら、そうすれば、返信ももっと早くなるでしょうし、コミュニケーションもずっとクリアになるだろうと強く思います。

If ~ , ...faster,clearer もし～ならば、...はずっと早く、...はずっとクリアになる

ロジック

ここは、自分の考える E メールエチケットを説明して話を締めくくった後、最後にもうひとつ入れたサポート部分です。締めくくりにあわせて、その E メールエチケットの利点(価値)を整理、強調し、自分の提案を聞き手に「売る・アピールする」効果を出している、とても英語らしい締めくくりです。

そして、自分の言ったことを「売る・アピールする」ときによく使われる表現の一つが、if ~ , (I, We) can... (もし～すれば、...できる)、や if ~ , ...比較級 (もし～すれば、ずっと...になる) などです。利点を強調してくれていることを味わいながら、表現にも慣れてしまいましょう。

considerate 配慮のある

やまと言葉

「consider(熟慮する、検討する) + -ate(～する、～がある)」という語の成り立ちからもわかるように、もともと「丁寧に考える、思慮深い」といった意味で、そこから「(まわりの人やものごとに)配慮がある、思いやりがある、理解がある」という意味で使われます。

the person who is receiving that e-mail その E メールを受け取る人

パターン構文

「名詞 (the person) + 修飾節」の文のつくりです。英語はこのように、まず、the person (その人)と漠然とした名詞で大きく置いておいて、「どういう人なのか」という詳しい情報を後ろから足す言い方がとても自然です。一方で、「その E メールを受け取る」人のように修飾部分が名詞の前に来る日本語とは逆の語順のため、聞き取りで混乱しやすい文のつくりでもあります。

the person...と漠然とした名詞が来たら、修飾節で詳しく説明してくれる情報が足されてくるのがほとんどですから、聞き取りのときはそのことを覚悟して、「うん、で、どんな人？」と後ろに足されてくる情報を待ち、「名詞 + 詳しい情報！」でひとまとまりの感覚で聞き取ります。